

# 抗原検査の使用方法の見直し（研究結果）

## 研究一覧

※各研究の結果概要は次スライド以降に掲載

### 1 発症日別のウイルス量を踏まえた抗原検査の使用方法の研究

- ・川崎市の行政検査による患者のデータ調査：発症日からの経過日数ごとのウイルス量（RNA Copy数）を推定。  
⇒評価）発症2日目から10日以内の症例については、十分なウイルス量を有することが確認できた。

### 2 発症日別のPCR検査と抗原検査の一致率に関する調査研究

#### ① 新規検体（クラスターを対象とした積極的疫学調査の一環で実施した調査）

- ・東邦大学病院 院内クラスター（有症状者）  
⇒評価）発症から9日目までは、PCR検査と抗原検査の一致率が高かった。

#### ② 保存検体を用いた調査

- ・国立国際医療研究センター 入院患者の保存検体  
⇒評価）発症から10日以内においては、陽性一致率は高い傾向がある。
- ・自衛隊中央病院 保存検体  
⇒評価）咽頭ぬぐい検体を用いた抗原迅速検査とPCR検査との結果に高い一致度が認められた。

- 発症2日目から9日以内の症例では、ウイルス量が多く、PCR検査と抗原検査の結果の一致率が高いことが確認された。
- 以上を踏まえ、6月16日、感染症部会に諮り、ガイドラインの改定を行い、発症2日目から9日以内の症例について、抗原検査で陰性の場合も確定診断ができるようにする。

## ガイドラインの改定等

- ・改定した「SARS-CoV-2抗原検出用キットの活用に関するガイドライン」を発出
- ・抗原検査キット添付文書の改訂（陰性の確定診断のためにはPCRで再検査が必要の記載を削除）